

# #14 実践の「見える化」 ～生活支援記録法～

●受講申し込み:国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクールHPより

コーディネーター:小嶋 章吾 教授(医療福祉学分野)

地域包括ケアの展開にあたり、多職種連携のもとで、情報共有、根拠に基づく実践の基盤となるのが実践における経過記録です。実践的・政策的にも、効率的・効果的な経過記録のあり方が求められています。「介護・看護記録」や「支援経過記録」といった経過記録のイノベーションとして、実践の可視化にも通ずる生活支援記録法の紹介とICT化の展望を提案します。

●主な講師 埼玉県立大学 准教授 鳥末 憲子

一般社団法人認知症高齢者研究所 所長 羽田野 政治

## 生活支援記録法とは？

多職種協働によるチームケアにおいて、生活支援の観点から、観察、支援の根拠、利用者とその環境との相互作用(働きかけと反応)、利用者の生活変化、これらを基にしたケアプラン反映への根拠等が明示可能な支援経過記録の方法である。

## 理論的根拠としての生活場面面接とは？

M-GTAによる応用研究の成果

利用者の日常生活場面において、援助目標に沿い、利用者の多様な側面と、必要に応じて環境(生活環境、出来事、他者との関係)を活用した意図的なコミュニケーションをいう。

テキスト(仮題)『ケアマネジャーの実践力を高める支援経過記録  
～地域包括ケア・多職種連携時代の生活支援記録法』日総研出版(近刊予定)

2017年3月18日版

生活支援記録法・生活場面面接を学ぶ各種教材例

●M-GTAによる生活場面面接研究の応用

～実践・研究・教育をつなぐ理論～(ハーベスト社)

●『地域ケアリング』誌(北陵館)

・地域包括ケアシステム時代のIPWを促進する実践の可視化

～求められる生活支援記録法のIT化～

・地域包括ケア時代の医療と介護の連携を促進する共通基盤

～定期巡回・随時対応型訪問介護看護における生活支援記録法の活用～

・ICT/IoTによる認知症ケアのイノベーション

～KCIS への「生活支援記録法」導入によるCPS化の実現～

●『高齢者安心安全ケア 実践と記録』誌(日総研出版)

・介護現場に好循環をもたらす生活支援記録法(3回連載)

●『真・介護キャリア』誌(日総研出版)

・介護プロフェッショナルキャリア段位制度の在り方を巡る議論への提案

～効果的な実践とOJTの観点から生活支援記録法への期待～



講座・生活支援記録法  
の詳細は裏面を参照

# 国際医療福祉大学 東京青山キャンパス

## 受講会場

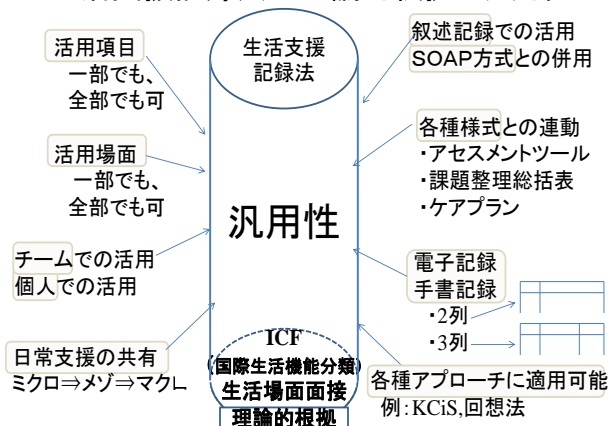
(東京メトロ銀座線・半蔵門線、都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅3番出口 徒歩2分)

【サテライト会場】大田原本校・小田原・熱海・福岡・大川各キャンパス  
講義のみインターネットによる視聴サービスをご利用いただけます。

受講料・定員 一般:24,000円(全4回)・30名

回	日時	講義名・講義	講師
1	5/20(土) 13:00~16:10	生活支援記録法の理論 (ICFと生活場面面接) —講義及び演習 ※事後課題あり	国際医療福祉大学 教授 小嶋章吾 埼玉県立大学 准教授 鳶末 憲子 <b>生活場面面接=M-GTAIによる応用研究の成果</b>
2	5/27(土) 13:00~16:10	生活支援記録法の実践方法 —講義及び演習 ※事後課題あり	埼玉県立大学 准教授 鳶末 憲子 国際医療福祉大学教授 小嶋章吾
3	6/17(土) 13:00~16:10	生活支援記録法の実際 —シンポジウム及び講義 ※事後課題あり	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等より、実践例の報告 埼玉県立大学 准教授 鳶末 憲子 国際医療福祉大学 教授 小嶋章吾
4	6/24(土) 13:00~16:10	生活支援記録法のICT化とAI化 —講義及び演習	一般社団法人認知症高齢者研究所 所長 羽田野 政治 国際医療福祉大学 教授 小嶋章吾 埼玉県立大学 准教授 鳶末 憲子

## 生活支援記録法～理論的根拠と汎用性



## 経過記録法の比較

記録法 (項目)	POR (問題指向型記録) (SOAP)	フォーカスチャータニング (F-DAR)	生活支援記録法 (F-SOAI)
焦点	# (問題毎に記録する)	F (問題点にとらわれない)	F (問題にとらわれない)
データ	S (Subjective Data) と O (Objective Data) を区別して記録	D (Data) を用い、主観的データ客観的データの区別せず記録	S (Subjective Data) と O (Objective Data) を区別して記録
アセス	A (Assessment)	項目なし	A (Assessment)
介入	なし	A (Action)	I (Intervention)
計画	P (Plan)	項目なし	P (Plan)
結果	なし	R (Response)	SまたはOに記録

出典: 厚生労働省老健局プレゼンテーション (2016年12月2日) 資料より

「介護支援専門員や介護職の実践力を高める支援経過記録～地域包括ケア・多職種連携時代の生活支援記録法～」